

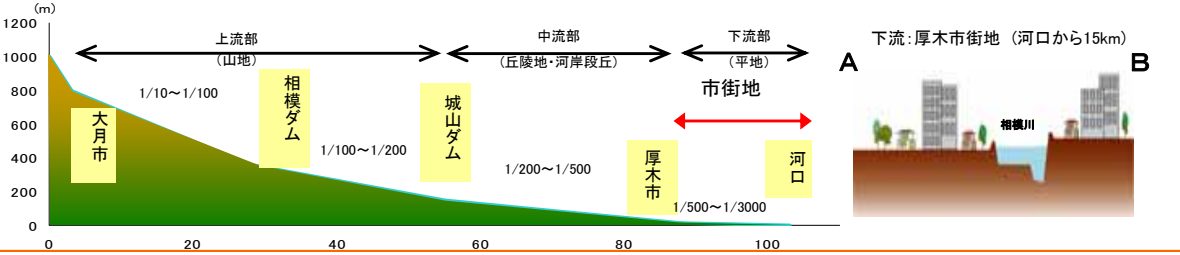
流域及び河川の概要

- 中流部から下流部にかけて市街地が広がり、特に下流の平野部に人口・資産が集中し、一度氾濫すると甚大な被害が発生。
- 流域の降雨量は全国平均程度。上流部は火山礫など透水性の高い地質で、降雨や降雪の多くが地下に浸透し伏流水となり、忍野八海や山中湖等を形成

流域及び氾濫域の諸元
 流域面積(集水面積):約1,680km²
 幹川流路延長:約113km
 想定氾濫区域人口:約30万人



	想定氾濫区域
	都県境
	新幹線
	在来線
	高速道路
	基準地点

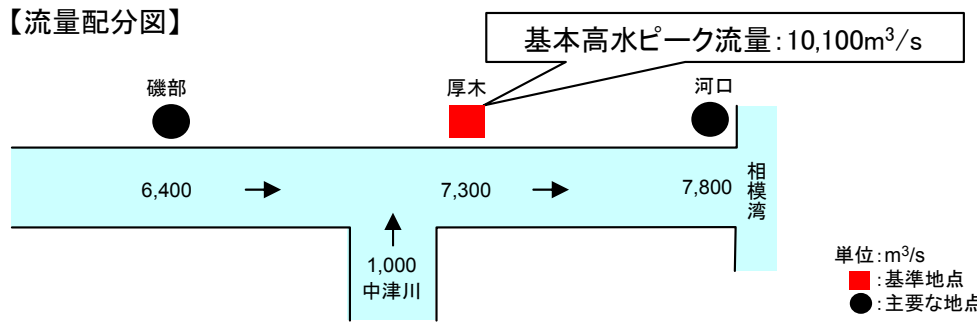


河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する。
- 流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、小倉地点ではかんがい期は概ね20m³/s、非かんがい期は概ね10m³/s、寒川取水堰下流地点では、年間を通して概ね12m³/sとする。

災害の発生防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、基本方針においても既定計画と同様に基本高水ピーク流量を基準地点厚木で10,100m³/sと設定。



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設施設の有効活用により対応
- 三川(相模川、中津川、小鮎川)合流付近で河道を拡幅し、流下能力を確保
- 無堤部区間及び堤防断面が不足している区間で堤防を整備
- 相模湾は高潮が発生しやすい地形であり高潮堤を整備

河川環境の整備と保全

- ヤマメ、カジカ等の渓流魚が生息する上流部では、良好な溪流環境の保全に努める。
- 中流部では河床の掘削形状に配慮して、アユ等の産卵・生息場となる瀬・淵の保全及びカワラノギク等の河原固有の動植物が生息・生育する礫河原の保全を図る。
- シギ・チドリ類等の渡り鳥の中継地となっている河口干潟の保全・再生に努める。



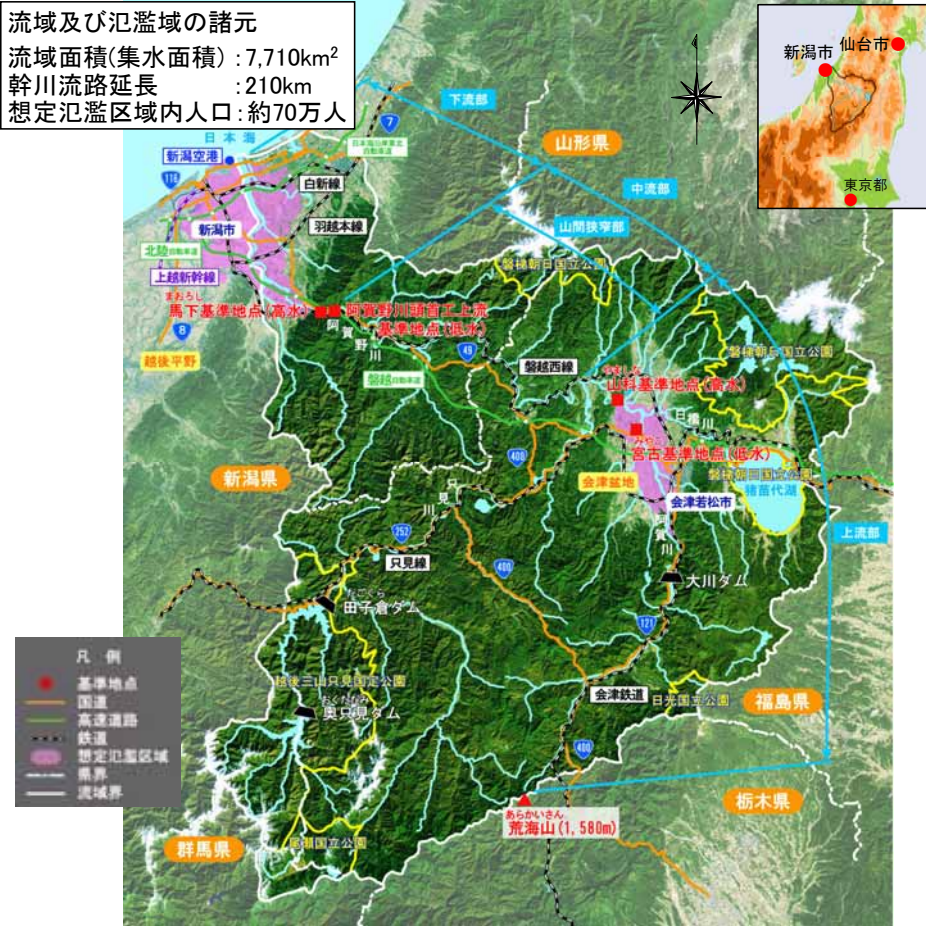
阿賀野川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 下流部の越後平野には政令指定都市の新潟市、上流部の会津盆地には地方拠点都市の会津若松市を抱え、人口・資産が集中
- 阿賀野川の年間流出量は、我が国有数の水量を誇り、古くから電源開発が盛ん

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 7,710km²
 幹川流路延長 : 210km
 想定氾濫区域内人口 : 約70万人

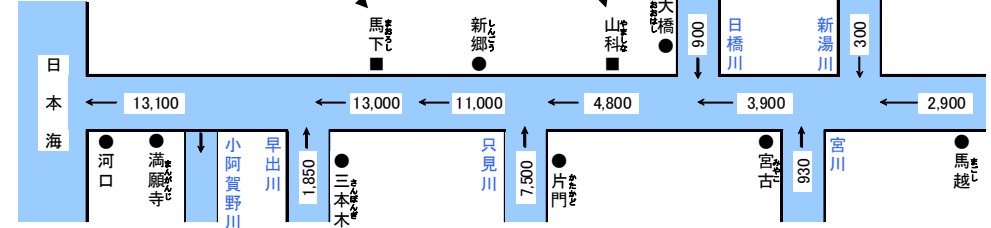


災害の発生防止又は軽減

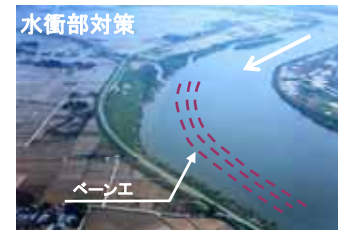
- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、基本高水のピーク流量を馬下地点で15,700m³/s、山科地点で6,100m³/sとする

【流量配分図】

(単位: m³/s)
 ■ : 基準地点
 ● : 主な地点



河道掘削 長井地区(予定箇所)



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存施設の有効活用により対応
- 堤防の新設、拡築及び河道掘削、樹木伐開により河積を確保
- 上流部では、急流河川であることを踏まえ堤防の拡築及び強化を実施
- 下流部では、水衝部に水制や護岸等を整備
- 流下阻害の一因となっている固定堰、橋梁等の横断工作物を改築
- 堤防の質的強化に関する対策を実施し、堤防の安全性を確保

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域かつ合理的な水利用の促進を図る等、今後とも関係機関と連携して必要な流量の維持に努める
- 宮古地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、非かんがい期は概ね7m³/s、かんがい期は概ね3m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとし、阿賀野川頭首工上流地点では、非かんがい期は概ね77m³/s、かんがい期は概ね110m³/sとする

河川環境の整備と保全

- 上流部(盆地部)では、滞筋の変化が激しい河川環境を踏まえ、淡水型イトヨやウケチウグイ等が生息するワンド・細流・湧水群・湿地環境等を形成する扇状地の河道の特性の保全に努める
- 下流部では、ウケチウグイ、アユ等が生息する瀬と淵が交互に連続する河床形態や、河口部におけるサギ類の集団営巣地である中州や水際のヨシ等の抽水植物群の保全に努める



淡水型イトヨ[トゲウオ科]



上流部の砂礫河原



ウケチウグイ[コイ科]

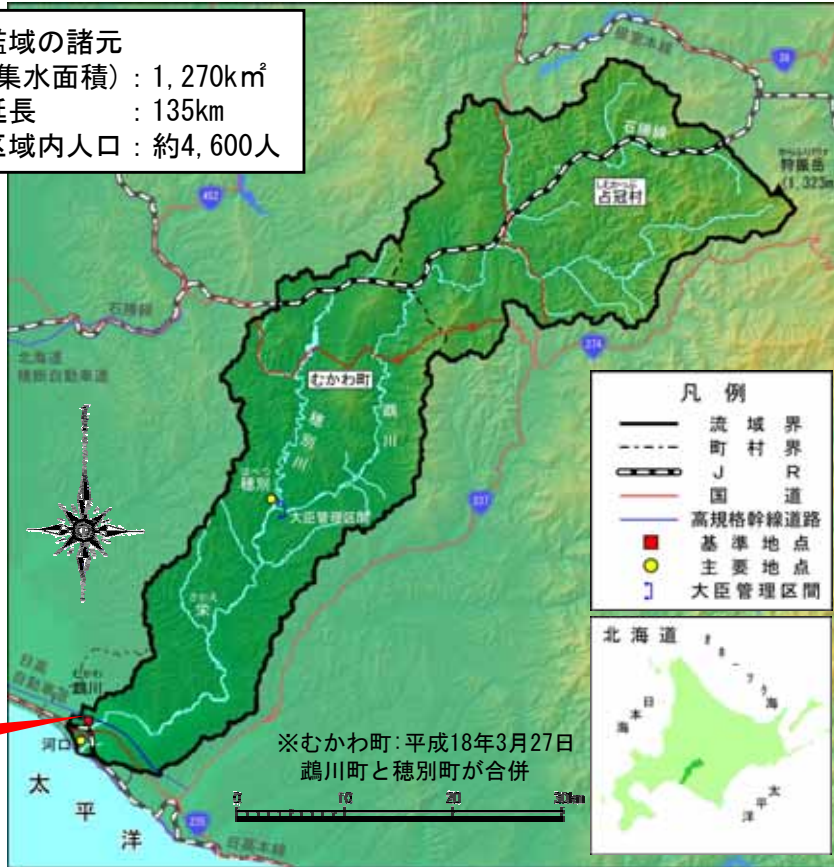
鷓川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 流域形状は南北に細長く、上流部は河床勾配1/150程度の急流河川。下流部の氾濫原に市街地・農地等の資産が集積
- 下流部には北海道の太平洋沿岸に生息し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの自然産卵床がみられる
- 河口部の干潟はシギ・チドリ類などの渡り鳥の重要な中継地となっている

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 1,270km²
 幹川流路延長 : 135km
 想定氾濫区域内人口 : 約4,600人

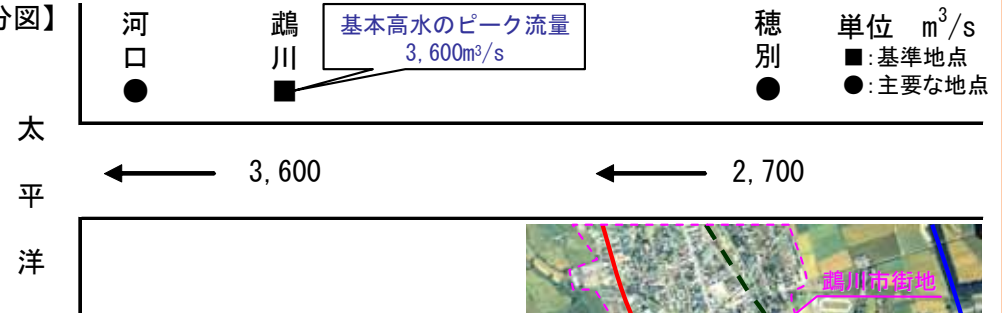


鷓川基準地点
 (高水、低水)

災害の発生防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような大きな出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を3,600m³/s(鷓川地点)と設定

【流量配分図】



- 基本高水のピーク流量の全量を河道で処理
- 流下能力の向上を図るため、堤防の新設、拡築及び河道の掘削、固定堰の改築を実施
- 河道掘削等による河積の確保にあたっては、シシャモの自然産卵床など、良好な自然環境の保全等に配慮



河川環境の整備と保全

- KP3.0~7.0付近には、北海道の太平洋沿岸に生息し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの良好な自然産卵床がみられ、生息環境の保全に努める
- 河口部の干潟は、シギ・チドリ等を中心とした渡り鳥の重要な中継地点として知られており、その保全と再生に努める

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

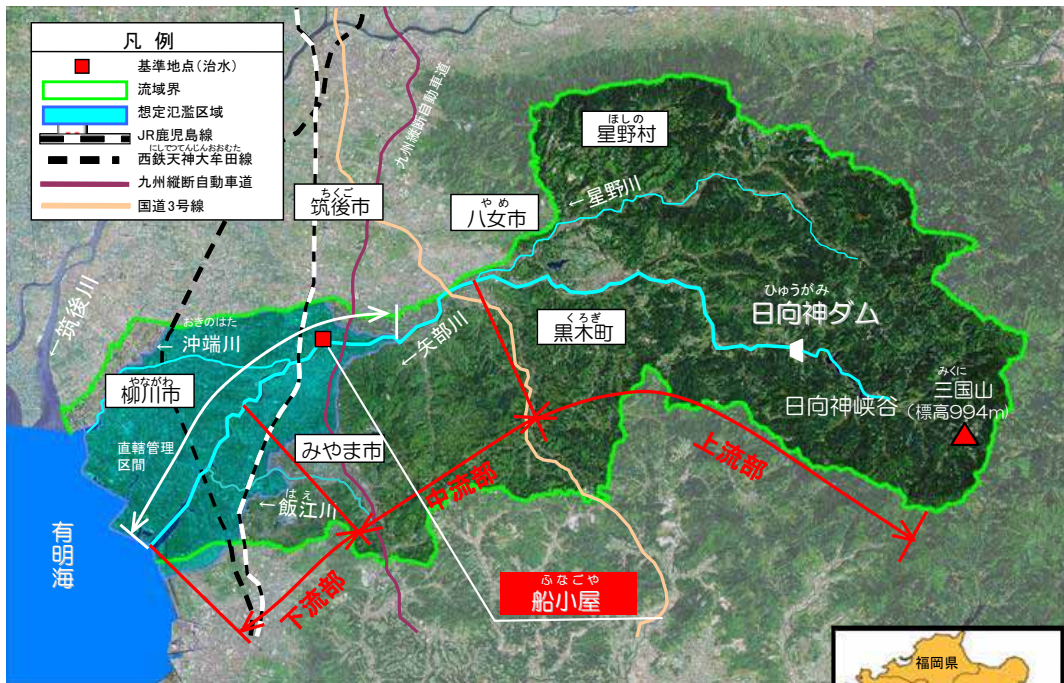
- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める
- 鷓川地点において年間を通じて概ね6m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする



矢部川水系河川整備基本方針(案)の概要

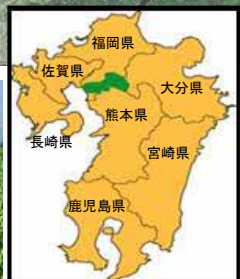
流域及び河川の概要

- 中流部は扇状地を形成し、下流域は沖積平野と干拓地からなり低平地が広がる。人口資産は中流部から下流に集中し、一度氾濫すると甚大な被害が発生
- 下流域ではクリークが網の目のように発達し、高度で複雑な水利用がなされている



流域及び氾濫域の諸元

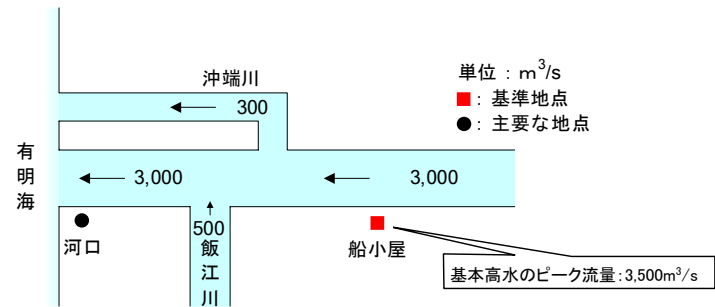
流域面積(集水面積) : 647km²
 幹川流路延長 : 61km
 想定氾濫区域内人口 : 約12万人



災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、基本方針においても規定計画と同様に基本高水のピーク流量を3,500m³/s(船小屋)と設定

【流量配分図】



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設により対応
- 河道では樹木伐開や分水路の河床掘削により流下能力を確保
- 堤防が老朽化し堤防高も不足している高潮堤防の整備を実施
- 関係機関と連携・調整しながら堤防や高規格道路等をネットワーク化し、復旧資材の運搬路や避難路を確保する広域防災ネットワークの構築を検討

河川環境の整備と保全

- 上流部においては、溪流環境の保全に努めるとともに、整備にあたっては水域と陸域の連続性に配慮する
- 中流部は瀬・淵が連続し、国指定天然記念物のクスノキ林やゲンジボタルの発生地があり、河畔林の伐開を必要最小限として、河川、耕作地、クスノキ林のエコロジカルネットワークの保全に努める
- 下流域は汽水域で干潟が広がりムツゴロウ等が生息。高潮堤防等の整備を行う際には、干潟環境の保全に努める



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 今後とも、流量調査・環境調査等を継続
- 流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流量調査や環境調査等、河川や流域における諸調査を踏まえ、クリーク等を介した複雑な農業用水の利用特性を把握した上で決定するものとする。